

令和4年度事業報告発行によせて

令和4年にはコロナ前の生活に戻って欲しいと昨年度の事業報告書に書きましたが、そうはなりませんでした。オミクロン株の流行に飲み込まれ、3度のクラスターを経験しました。幸いコロナ感染のために重症化した入所者はいらっしゃいませんでしたが、流行の抑え込み、職員確保などに苦労しました。また、早くコロナ前のような日常活動、自由面会に戻りたいという願いも叶いませんでした。

昨年度に「令和3年度に中長期計画『花ノ木ビジョン 2030』を策定し公開しました。障害児支援は子育て支援であり、家族支援を充実すること、グループホームを核とした地域支援を拡大すること、施設の大規模改修を通じた入所者支援の充実、地域で障害児者を支援する人たちとの連携強化を柱としています。大規模改修はコロナ禍と世界的なサプライチェーンの混乱による建設費高騰があり計画通り進むのかと心配していますが、できることから着実に前に進んでいこうと思います。」と書かせていただきましたが、わずかしかな進むことができませんでした。令和5年度にはグループホーム建設には着手できそうですが、本体の大規模改修は建築費の大幅な高騰で実施時期を再検討せざるを得ないかと心配しています。

施設を取り巻く環境が大きく変わっています。入所より住み慣れた場所での在宅生活を選ぶご家族が増えました。脳性麻痺の大幅な減少と発達障害の急激な増加で外来利用者像が極端に変化しました。重症心身障害児者施設から脳性麻痺や医療的ケア児を含む発達過程に課題のある児者の医療福祉施設に役割変更を求められています。検討すべきことは多くあります。しかし、先進施設の見学やいろいろな学会、講演会への参加はコロナ蔓延下では叶いませんでした。令和5年5月に新型コロナウイルス感染症は5類になったわけですが、6月末現在で、沖縄県ではコロナ感染者が急増し医療現場が混乱しているとの報道があります。関西でも少し遅れて第9波突入との予想も聞きます。落ち着いて将来計画を練る環境がなかなか整いません。一方でそれを言い訳にしている自分自身への苛立ちも感じます。

心理学の授業だったかで、アンビバレント ambivalent という言葉を習いました。相反する意見・感情が同時に存在し混乱する様子というときに使う言葉だそうです。この3年ほどはまさにこのアンビバレントな感覚に悩まされてきました。新型コロナは怖い、いや今やちょっとひどい風邪だ。施設外との関わりは避けたい、いやもっと積極的に外部と関わろうというような相反する感情です。令和5年の後半には一定の社会的なコンセンサスが得られて、いわゆる新しい日常なるものが成立していることを願っています。

このような中での令和4年度の事業報告になりました。ひたすら守りに入ったままの活動報告ではありますが、お目通し願えれば幸甚です。

花ノ木医療福祉センター
施設長 寺田 直人

令和4年度 社会福祉法人花ノ木 事業報告

社会福祉の主たる担い手である社会福祉法人として、自律的に経営基盤の強化を図り、利用児・者の人権を尊重した福祉、医療サービスを提供するとともに、複雑多様化する課題に積極的に対応すべく、令和4年度においては、令和3年度に策定した中・長期計画を踏まえ、公益法人にふさわしいガバナンスと透明性を備えた事業を次のとおり展開しました。

1 中・長期計画「はなのきビジョン2030」の着実な推進及び進捗管理

令和3年度に策定した中・長期計画の着実な推進を図るため、所属横断的に職員の力を結集し、具体的な推進方法について検討するとともに、コロナ禍において遅れは見られるものの着実な進捗管理に努めました。

2 入所者の生活環境の改善に資する施設設備の整備充実

中・長期計画に基づき、入所者の生活環境の改善に資するため、プライバシーに配慮し、経年劣化等にも対応した施設設備の機能回復など建造物の長期活用を図り、新型コロナウイルスなど感染症に対応できる病床配置も考慮した病棟改修の検討を進めています。

また、重心型グループホームの設立に向け、建物の設計及び運営体制等を検討しています。

3 家庭での子育て支援の取組

在宅の重症心身障害児・者や保護者への多様なサービス提供体制を検討するとともに、在宅支援機能の充実を図り、重度心身障害児・者のくらしを総合的に支援しました。

4 地域支援の取組

社会福祉法人の役割である地域貢献を果たすため、花ノ木のもつ資源を活用し、短期入所の促進を図るとともに、発達障害児の支援については、医療、福祉支援に教育的支援を加えた多様なサービスを展開し、就学後の発達支援を充実することができました。

5 経営、財政及び人事育成

(1) 経営及び財政の強化を図るため、適正な予算管理と執行管理の徹底を図るとともに、各事業分野における事業の点検・見直しを行い、デジタル化の推進等事務事業の改善を進めました。

加えて、中・長期計画を推進するための財源確保に取り組みました。

(2) 適正な人事評価を行い、キャリアパス制度の構築、職員の資質向上のための階層別研修等に派遣するほか、長期的な視野にたって人材育成に努め、魅力ある職場づくりを図るとともに、必要な人材の確保に努めました。

6 防災対策の充実

頻発する地震や異常気象、火災並びに感染症に備えるため、BCPの適切な見直しを行うとともにこれに基づいた防災訓練を施設全体で計画的に実施し、適応体制を確立しました。

7 新型コロナウイルス感染対策

職員一人ひとりが自覚をもって新型コロナウイルス等感染症対策を実施し、入所者の命を守る行動に努めました。

また、ワクチン接種については、京都府、亀岡市と連携し、積極的に地域住民のワクチン接種に努め、地域での新型コロナウイルス感染対策、地域貢献に資することができました。

令和4年度 花ノ木医療福祉センター 事業報告

今年度も新型コロナウイルス感染対応に終始する年度となりました。昨年度単発の発生であった新型コロナ感染ですが、今年度は病棟で3度のクラスター発生を経験し、入所者と職員が多数感染しました。「利用者の命を守る行動を」のスローガンのもと、職員団結し行動した結果、他施設に比べ早期に収束することができ、幸いコロナ感染症によって重症化する方もありませんでした。しかしながら、コロナ以前の事業実施状況に戻るには至りませんでした。

【事業方針】

1 人権

- ・人権擁護および障害者虐待に関わる所内研修と亀岡市教育委員会主催の人権研修会に年7回、職員が参加しました。
- ・虐待防止・身体拘束防止委員会を年2回開催しました。各病棟では支援計画の6か月モニタリングと臨時の身体拘束に関するカンファレンスを行いました。

2 運営

- ・病棟空床による減収が生じる一方で、新型コロナウイルス感染症およびウクライナ侵攻の影響を受けた原材料費や電気ガス料金の高騰で支出が増加しました。
- ・地域住民向けに新型コロナワクチン集団接種を実施しました。居住地の近くで接種出来る事、接種予約サイトでスムーズに予約できたこと、職員の丁寧な対応など地域の方々に喜んで頂ける結果となり、地域貢献を果たすことが出来ました。

3 入所支援

- ・8名の方がお亡くなりになり7名の方の入所がありました。重症化による多くの医療的ケアが必要な方が第2、第5病棟で50%と増加しました。18歳以下の障害児入所の方は2名増え10名となりました。
- ・新型コロナウイルス感染では、4月、8月、12月にクラスター発生がありました。入所者の感染者は52名で、うち2名が他病院で入院治療を受けましたが、短期間で軽快され再入所されました。感染期間中は、病棟閉鎖を行いつつ他病棟や他部署からの応援体制を取り入れ入所支援の継続に努めました。
- ・日中活動においては、新型コロナウイルスの感染対策に努めながら、近辺の料理店や花ノ木に来訪するキッチンカーから弁当をテイクアウトするなど、センター全体の行事を各病棟開催にして小集団で実施するなどの工夫を行いました。
- ・面会はコロナ感染状況に応じて人数制限を設け実施しました。オンライン面会も継続して行いました。
- ・入所者等の事故報告は13件で、内訳は骨折9件、誤薬1件、職員の針刺しが3件ありました。感染症においては新型コロナウイルス感染症のクラスター発生当初から京都府感染サポートチームの訪問指導を受け、感染対策のアドバイスや換気状況の調査をしていただきました。
- ・短期入所はクラスター発生により全病棟閉鎖で40日間、感染病棟単位で合計50日間の事業休止期間がありました。

4 重症心身障害児者等の地域支援

- ・専任のコーディネーターを配置し医療的ケア児の情報収集に務めました。
- ・家族の入院などで在宅生活の継続が難しくなった方に、空床を利用した有期限入所を調整し、短期入所以外での在宅サービスを提供する事が出来ました。

5 発達障害児者等の地域支援

- ・児童発達支援事業おひさまは登録者数96名が利用され、計画通り事業を実施できました。
- ・放課後等デイサービス事業ココはなのきは、開所日数を前年度の週4日から週5日に増やし実施しました。
- ・相談事業は新型コロナウイルス感染症の影響があり件数は減少しましたが、予定通り実施出来ました。

6 職員採用と育成

- ・インターンシップをWEBと実地の2通りの方法で実施しました。
- ・学生1名がアルバイトから正規職員での就職に繋がりました。

事務部 事業報告

- 1 入院診療収益において入所日数が前年比較で延べ892日の減、病床数では月あたり2.4床の空床で減収となりました。また支出においては、事業費が電気・ガス料金の高騰や購入物品の値上げで前年対比10%増加しましたが、事業活動経常収支増減差額を最終プラスで確保することが出来ました。
- 2 活躍できる事務職員の育成として、新型コロナワクチン接種では予約受付管理、会場設営など運営にかかわる業務を担当し、地域貢献の役割を果たしました。
- 3 防災、防犯対策において計画通りに訓練を実施し職員の意識の向上と予防啓発に務めました。

診療部 事業報告

- 1 令和4年度の常勤医師は、小児科5名、精神科2名、整形外科1名でした。
- 2 本年度も最重要課題は、昨年度同様新型コロナウイルス感染症への対応でした。昨年度から引き続き、職員と入所者、地域住民への新型コロナウイルスワクチン接種、感染標準予防策の徹底と三密回避を行い、感染状況に応じて入所者家族や業者の来訪を制限するなどの対策を行いました。
- 3 入所では、8名の方が亡くなりました。急な経過で亡くなられた方が5名と多かったのが特徴的でした。新型コロナ関係では病棟のクラスターが3回発生し、入所者52名、病棟職員34名が罹患しました。入所者2名が他病院に加療のため転院されましたが、短期間で回復し帰院されています。京都府感染症サポートチーム等外部の専門家の支援が受けられたことはその後の感染対策に役立てられて有意義でした。
- 4 外来では、昨年同様、感染予防のための発熱外来、隔離診察室を設置対応しました。一般外来、発熱外来、歯科外来は適切な感染予防を行いました。外来患者数は予防接種件数が大幅に減り、また新型コロナ感染によるキャンセルも相次いだため、全体的な診察数は減少したが、新患数は+120と増えており、発達外来の患者数も前年度と変わらない水準を維持していました。発達外来における発達検査数は新型コロナ感染症によるキャンセルの影響もあり、516件（前年比90%）と減少したものの、心理カウンセリング数は127件（前年比114%）と増加しました。入所者に対する情報提供、相談活動も5件行うなど、専門性を生かした活動を行いました。

発達医療係

昨年度同様、コロナウイルス感染症対策を講じながら、専門発達外来における診断・評価、相談、指導など、発達障害児・者とその保護者に対し、さらなる支援の充実を図りました。

また、発達外来業務の整理、効率化をさらに進めたことで、心理検査、心理カウンセリング実施件数の安定化ならびに、多様化する利用者のニーズに対応すべく使用できる検査の拡張を行いました。

さらに、発達外来利用者に対して、感染対策を講じた対面形式の保護者学習会を再開し、発達支援に関する専門的な情報提供を行いました。花ノ木内部の他職種並びに地域の学校・保育・福祉・療育機関と連携し、利用者支援にも取り組みました。

栄養管理係・給食係

- 1 嗜好調査を4回（5/15、8/21、11/20、2/19）実施しました。
- 2 10/11 コロナ感染症発生時における非常食訓練を実施しました。
- 3 11/16 情報発信事業「はなのき料理講習会」を実施しました。在宅介護向けの内容に変更し、初めて介護食に取り組みれる方でも簡単に分かりやすい食事紹介を行いました。障害者施設の栄養士、グループホームの職員など11名の参加でした。
- 4 全病棟対象に手作りおやつを提供を毎月行いました。サイコロ・キザミ食摂食者だけでなく、ゼリー食摂食者も食べやすい形態で提供し好評を得ました。
- 5 サイコロ・キザミ食摂食者に電子レンジで温めたショートケーキを提供しました。食べる直前に温めることで牛乳に浸すことなく、食感が柔らかくてケーキの香りも楽しんでいただけました。
- 6 季節を楽しめる行事食を6回（子どもの日、七夕の日、敬老の日、クリスマス、おせち、ひな祭り）提供しました。（料理写真、献立は花ノ木ホームページに掲載しています。）
- 7 「たんとおあがり 京都府産」認定が継続されました。
- 8 給食提供数

入所は152,830食（内短期入所2,821食）、児童発達支援おひさまは1,468食、通所は1,913食、延べ156,211食となりました。

医療技術部 事業報告

利用者にとって、最適で安全な医療サービス提供を心掛けると共に、職員の資質向上を図りました。また、新型コロナ対応については関係部署と調整し、感染対応についての資材調達、センター内外のコロナワクチン実施に参画しました。

薬剤係

- 1 メーカーの出荷調整・供給停止により、薬剤の供給遅延・不足が相次いで発生しましたが、影響を最小限に留め、既存服用薬の変更が発生しないように、在庫量の安定確保・在庫調整に努めました。
- 2 センターでのワクチン接種において、ワクチンの保管管理やシリンジへの薬液充填などを主に担当しました。また、京都府ワクチン対策室・京都府薬剤師会からの要請により、大規模接種会場でのワクチン接種業務についても出務協力しました。
- 3 新型コロナウイルス感染症治療時の特別承認薬剤使用のための手続きを行い、発生時に迅速に対応できるように整備しました。そのため、当院でも院内処方・院外処方、両処方において、発生時には迅速かつ円滑に治療薬を処方提供することができました。
- 4 採用薬剤の検討時に、ジェネリック医薬品(主にオーソライズドジェネリック：原薬、添加物および製法等が新薬(先発医薬品)と同一のジェネリック医薬品)を積極的に候補として含め選定採用しました。また、使用量・回転数から、既存採用先発薬剤からの切替えについても見直しを行い、当院におけるジェネリック医薬品の普及率・採用率を上昇させると同時に、薬剤購入費用の低減に繋がりました。

リハビリ係

1 人権尊重

- ・利用者の人権を尊重し、関係法令を遵守して業務を遂行しました。

2 円滑な業務遂行

- ・引き続き、感染対策の指示内容に基づき、関係部署と確認・調整しながら業務を遂行しました。
- ・業務上の問題点や課題について迅速に意見集約し、具体的対応を検討しました。
- ・検討した対応については、担当職員・期限を決めて遂行しました。
- ・決定内容は文書開示や口頭説明、ガルーン発信等で情報共有しました。

3 入所、外来、通所、地域療育等支援事業に関する業務内容の充実

- ・職員および保護者より生活に関わる主訴を聞き取り、主訴に基づいた評価・訓練を実施しました。
- ・多職種カンファレンスや医師面談への参加、資料提出等を行いました。
- ・府下の関係機関からの相談に対して、感染対策の指示内容の範囲内で可能な限り、地域療育等支援事業に基づいて対応しました。
- ・放課後デイサービス「ココはなのき」の運営に携わりました。

4 理学療法、作業療法、言語聴覚療法の知識・技術の向上

- ・職種内ケース検討やケース相談、他職種との意見交換等を通して、対象児者の評価・訓練内容の向上を図りました。
- ・計画的に、研修を聴講する機会や非常勤講師の指導を受ける機会を設けました。
- ・研修・指導から学んだ内容を職種内や係内で共有し、業務に反映しました。

5 情報発信事業の実施

- ・7月9日に講師を招いて『遊びは学び～乳幼児の発達と探索、それを支える環境とは～』を開催しました(参加者28名)。

6 職員の育成

- ・上記4参照
- ・必要に応じて、職員の面談を実施し、課題と今後の対応について整理しました。

看護生活支援部 事業報告

入所支援、在宅支援の部署として、重症心身障害児者に対してより良い看護サービス、介護サービスを提供しました。

1 入所者の健康状況 ()内は対前年度比

超重症児者 20 名 (+1 名)、準重症児者 15 名 (-2 名)、呼吸器装着者 (排痰補助装置含む) 22 名 (±0 名)、気管切開者 18 名 (+1 名)、経管栄養者 56 名 (±0 名)、胃ろう・腸ろう者 49 名 (-1 名)。

＜入院数＞内科系 9 名 (延べ 99 日入院)、外科系 11 名 (延べ 289 日入院、手術 7 名)

＜通院数＞全病棟 152 回通院 (前年より 28 回増)

受診科 : 呼吸器内科、消化器内科、消化器外科、整形外科、泌尿器科、眼科、耳鼻科、外科、歯科、内科、脳神経外科、小児外科、小児科、婦人科、乳腺外来、循環器科

＜入所者・退所者＞退所者 8 名、新入所 7 名

2 医療安全 感染

①事故件数 12 件 (骨折 8 件、ひと間違いの誤薬 1 件、針刺し 3 件)

取り組み: 臨床工学技士による医療機器の学習会と日常的なサポート体制の継続、リハビリ課との連携、医療安全管理者養成研修への参加

②感染状況と対策

新型コロナウイルス感染者、入所者延べ 53 名 (短期入所者含む)、職員延べ 38 名。

陽性となった入所者 2 名が他院での入院治療を受けました。

取り組み: 他部署からの応援体制を取り入所支援の継続に努めました。また、京都府の感染サポートチームの訪問を受け、感染対策、換気状況への助言を受けました

3 日中活動

小集団活動を中心とし、感染対策を取りながら季節のイベントや音楽の日を設け病棟ごとに活動を行いました。外出活動は、ドライブや家族室の利用を組み合わせながら実施しました。

4 短期入所

新型コロナウイルス感染症予防のため、利用自粛を依頼した期間がありました。利用日数は 2142 日、年間稼働率は 73%でした。

5 家族支援

面会期間中には、入所者の様子を手紙と写真で郵送しお伝えしました。面会中止期間中もオンラインでの面会を実施しました。オンライン面会は延べ 34 回、面会は 460 回でした。

成年後見申請等の相談を京花園と協力し受けてきました。親族後見から第三者貢献への変更、新たに成年後見制度を利用されるご家族がありました。

6 人材育成

所内研修の参加と外部の WEB 研修への参加、各病棟内では毎月 1～2 回各病棟特性に合わせた研修を行いました。虐待防止研修は病棟職員全員が受講しました。

地域支援部 事業報告

重症心身障害児者等コーディネーターが、地域で生活されている重症心身障害児者や医療的ケア児の相談等を通して情報把握に努めました。また、短期入所や長期入所等の問い合わせ窓口として、利用者と花ノ木を繋ぐ役割を担い、1年間で29件対応する中で新たな短期入所利用者の調整をしました。

花ノ木に空床が出た際には速やかに行政機関へ連絡し、迅速に入所して頂けるよう連携しました。前年度に引き続き、ご家族の事情等で在宅生活の継続が難しくなった方に、中期入所を調整し、地域の方へのサービス提供が出来ました。

相談係

計画相談支援については、合計1,474件（昨年度より116件増加）のサービス等利用計画等の作成を行い、情報提供やサービス調整などの相談支援を実施しました。

通所係

8月と12月に複数の職員、利用者がコロナウイルス感染症陽性となり、生活介護、放デイともに、それぞれ10日～14日間臨時休所としました。

〔はなのき通所（生活介護）〕

利用契約者18名、開所日数229日、一日平均利用者数は13.1人、出席率は92.3%でした。4月から2名が新たに利用開始されましたが、1名は5月末で退所され他の事業所を利用されています。体調不良により長期欠席されている方が1名、7月から新たに利用開始された方が1名いらっしゃいます。また、地域の方との交流を目的として、通所で育てたマリーゴールドの花を日吉台の各家庭に配布させていただきました。

〔はなのき放課後等デイサービス〕

利用契約者6名、開所日数228日、一日平均利用者数は2.1人、出席率は82.1%でした。3月末で2名が利用を終了されました。

花ノ木児童発達支援センター 事業報告

1 発達療育課 こども療育係「おひさま」

(1) 児童発達支援センターとしての機能：圏域の障害児への療育及び支援提供

・令和4年度末の登録者数 96 名。年間開所日数 231 日。年間延べ利用者数 3,352 名。平均利用率 79.5%でした。

・南丹市・京丹波町在住で、主治医が花ノ木児童発達支援センターの支援の必要性ありと判断し、当該市町と保護者の同意が得られた南丹市2名、京丹波町1名の児童に対し、個別児童発達支援事業を実施しました。(4月からの登録者数に含む)

・保育所等訪問支援事業を2件実施しました。

・IHP(個別支援計画)に基づいて個々に応じた療育目標を設定し、毎回振り返りを行いながら療育プログラムを作成しました。保護者との面談時に聞き取った内容も療育に組み込み支援を行いました。

(2) 保護者支援

・4月23日保護者向けの就学説明会開催。30名の参加

・5月23日・25日発達障害をテーマに保護者学習会。2日で22名の参加

・6月～10月クラスに合わせた形態でペアレントトレーニングを計画・実施。延べ134名が参加

・11月5日校種や特別支援の利用状況により3回に分けて卒園児の保護者との交流会を開催。年長児保護者延べ30名の参加

・サポートブック作成を希望する年長児保護者のために、グループワークや個別サポートを実施。

(3) 関係機関との連携

・保護者同意のもと、関係機関と連絡を取り連絡会を開催。並行通園先との連絡会を64件、就学先との連絡会を48件行いました。必要なケースには、連絡会時並行通園先の先生による療育見学を実施し情報共有。

(4) 通園児への支援内容の質の向上・人材育成の充実

・関西学院大学菅原教授から5月～月1回、年間10回、来所・ZOOMによるスーパーバイズ。活動内容を見直し目標のあり方を再検討し実践に結びました。

・定期的に研修を実施。

(5) 南丹保健所 はぐくみ事業への参加・協力

・南丹保健所主催のはぐくみ事業においては、全体研修、ケース検討会・連携会議(ZOOM開催)に参加し、地域の療育機関、行政機関と情報交換をしました。

(6) 大学連携

・佛教大学より3名、光華女子大学より1名の保育実習生、花園大学、広島大学、佛教大学より1名ずつインターンシップの学生の受け入れ・指導を行いました。

(7) 地域行事への参加

・令和4年10月16日に開催された、亀岡市障がい者福祉大会「つながろう作品展」に通所児童の作品を出品しました。

2 発達支援課 児童支援係「ココはなのき」

(1) 学齢児への支援

・開所日数を週4日から週5日に増やし、月曜から金曜の開所としました。

・2023年3月末時点の登録者数44名。年間開所日数231日。年間延べ利用者数2,073名。平均利用率は82%でした。

・学齢期の支援を必要とする児童にグループ活動の中で、個に応じた教育的支援を実施しました。

・機能訓練士、保育士、児童指導員等全スタッフで毎月1回定例会議開催を継続し、活動内容の検討や児童ケースカンファレンスなどを行いました。また読み書きに支援を必要とする児童に対し、より専門的な指導を行なえるように心理スタッフと連携し進めました。

(2) 支援内容の質の向上

児童発達支援センターにおいて、こども療育係と4回の合同研修を組み、活動アイデアの学びを深め、また係内では、毎月1回心理スタッフと読み書きの支援について学ぶ機会を作り、より専門的な支援を行なうように努めました。そして大阪医科歯科大学LDセンター他のZOOM研修を活用し、年8本の講座を受講し、研鑽に努め利用児童の支援に活かしました。また全利用児童のケース会を行うことや支援内容の検討を常に行い一人ひとりに応じた支援を進めました。

今年度は、支援の振り返りと到達点の確認の意を含めて嘱託以上の各職員が個別児童のケースまとめを取り組み日本LD学会発表に向けて進めてきました。

(3) 保護者支援及び関係機関連携

- ・保護者交流会を通所日ごとに年3回実施し、延べ85名が参加されました。
- ・関係機関連携として、教員の来所見学を5ケース受けました。
- ・事業所内相談支援96件実施しました。

3 京都府発達障害児支援拠点相談体制強化事業

令和元年京都府から受託している拠点事業として、未医療受診の相談対応を行いました。

相談件数は24件、南丹圏域の6機関と連携をしました。また関係施設及び関係機関に対して、普及啓発及び研修を7回(94名)行いました。

苦情解決について 報告

令和4年度は、10月に短期入所をご利用の保護者から1件の苦情申し出がありました。

内容としては、ご利用中の就寝場所が、物が置かれた食堂の一部を使用していたことについてでした。

対象のご利用者は、もともと畳に布団を敷き就寝されていましたが、7月の短期入所利用時に手指の骨折が発見されたため、夜間帯はベッドで就寝していただくよう、保護者の了承を得て変更していました。10月の短期入所利用時に、ご家族より夜間の就寝場所について質問があり、「病棟で感染症が発生した時は食堂の一部にベッドを置き就寝していただく事があります。」と回答したところ、保護者が初めて食堂内に車いすなどの物が置かれている様子を見られ、「物置のように見えるような場所で就寝するのは問題ではないか。」と改善を求められました。

ご家族には、就寝時のみとはいえ物が置かれた食堂を使用していたことについて不適切であったこと、病棟の感染状況などにより食堂の一部を使用することが有り得ることを事前に説明がされていなかったこと、居住空間についての配慮が不足していたことを謝罪し、就寝場所として適切に使用が可能な場所を検討し改善を行いました。

今後は、短期入所者、長期入所者にかかわらず、ご利用者にとって適切な居住環境であるか考え、提供していきたいと思っております。

令和4年度 地域向け情報発信事業 事業報告

今年度の情報発信事業は、昨年度に引き続き新型コロナウイルス感染対策を取りながら、来場とWEB（ZOOM）を活用した計画を立て、来場をお断りせざるを得ない会については職員のみで実施・収録し、HPに動画（You tube）掲載する等、柔軟な対応により開催しました。

1 遊びは学び～乳幼児の発達と探索、それを支える環境とは



期日：令和4年7月9日（土）10：00～11：30

担当：リハビリ係（作業療法士）

講師：嶋田 容子（同志社大学赤ちゃん学研究センター 特任研究員）

参加：28名（来場）

内容：参加者は関わりのある対象者を想定し主体的に参加され、アンケートによる満足度は5段階中4.46と、やや満足～満足でした。質疑応答では、参加者各々の立場からの感想や意見も出て、共有でき参考になったと言う意見もありました。

2 夏の思い出に「家の貯金箱」を作ろう



期日：令和4年7月10日（日）13：00～15：00

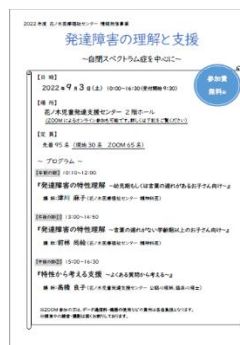
担当：看護生活支援部

講師：森 太三 氏（美術作家 みずのきアトリエ講師）

参加：24名（来場・WEB）

内容：今回も講師の先生には別室から作品製作のアプローチをもらいながら、地域の方、入所者参加の会場と結び、WEB（ZOOM）での交流となりました。また、出来上がった作品については、亀岡市立図書館中央館のスペースをお借りし展示し、地域の方への発信をした後、センター内に置かせていただきました。

3 『発達障害の理解と支援～自閉スペクトラム症を中心に～』



期日：令和4年9月3日（土）10：00～16：30

担当：発達医療係・花ノ木児童発達支援センター

講師：午前の部 津川 麻子（花ノ木医療福祉センター 精神科医）

午後の部 前林 尚絵（花ノ木医療福祉センター 精神科医）

高橋 良子（花ノ木児童発達支援センター 公認心理師）

参加：64名（WEB）

内容：保育士、園教諭、教員、保健師、療育等支援員など、日常的に発達障害を持つ子どもたちと関わる機会のある支援者に対し、自閉スペクトラム症に対する基本的な知識と対応について伝え、地域のサポート力の底上げを目的に開催しました。参加者からの評判は良く、講演会後のアンケート調査においても満足度は高い評価をいただきました。

4 ボランティア講座「障害者・高齢者のスポーツやゲームを知ろう(ボッチャ PART II 再び!)」



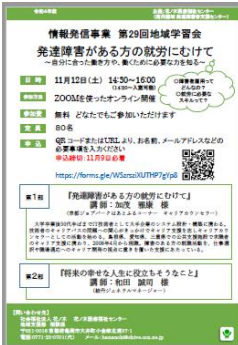
期日：令和4年10月1日(土) 13:30~15:30

担当：ボランティア委員会

講師：ボランティア委員

内容：コロナ感染対策のため中止としましたが、ボッチャと花ノ木で日頃実施している障害者・高齢者ができるスポーツやゲーム、花ノ木のサポーター活動の紹介と募集をボランティア委員が収録し花ノ木HPにYouTube 公開しました。初めての取組ですが、今後増加することも予想され、編集にも慣れ見やすい動画作成を目指したいと思います。

5 第29回地域学習会 発達障害がある方の就労にむけて



期日：令和4年11月12日(土) 14:30~16:00

担当：相談係

講師：第一部 『発達障害がある方の就労にむけて』

加茂雅康 様(京都ジョブパークはあとふるコーナー キャリアカウンセラー)

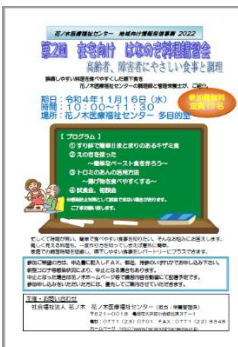
第二部 『将来の幸せな人生に役立ちそうなこと』

和田誠司 様(結丹ジェネラルマネージャー)

参加：33名(WEB)

内容：講師も参加者もZOOMを使ったオンラインでの参加としました。講師の話聞いての質問にはチャット機能を使っていたことで、対話形式も取り入れながら進めることができました。関係者が日々の関わりの中で生かせる内容であったと思います。

6 在宅者向け はなのき料理講習会 「高齢者、障害者にやさしい食事と調理」



期日：令和4年11月16日(水) 10:00~11:30

担当：給食係・栄養管理係

講師：調理師

参加：11名(来場)

内容：在宅介護やグループホームなどでお困りの方向けに、初めて介護食に取り組まれる方でも簡単に分かりやすい食事紹介を行いました。食べにくい食材と粘性のある食材をすり鉢で合わせるレシピの紹介は好評でした。えのきを使ったペースト食は、えのきがもつ特性のねばりを活かし、ペーストにすることでとろみに変わるということに興味を持たれる方がおられました。

介護職員等による喀痰吸引等研修（第三号研修） 実施報告

今年度は、地域における新型コロナウイルス感染拡大により、予防対策として基本研修実施は実施せず実地研修のみとし、年間受講者数 24 名でした。

所属事業所の地域別受講者数は、南丹圏域 4 名、京都市内 1 名、以外の京都府南部 0 名、京都府北部 19 名でした。

医療介護安全管理委員会 活動報告

<医療介護安全管理委員会報告>

全部署の研修 年 2 回の研修を実施

前期：ヒヤリハット報告、人間の特性について他

後期：“考えない”ように“考える”

<感染防止対策委員会報告>

研修

①感染予防 標準予防策、感染別経路予防策、COVID19 について

②コロナから学んだこと（講師：京都府保険環境研究所 所長）

取り組み

今年度も引き続き、新型コロナウイルス対策が主な取り組みとなりました。

京都府の感染サポートチームの訪問を受け、感染対策、換気状況への助言を受けました。

新型コロナウイルス感染対策について、京都府からの通知をもとに、地域の感染状況に応じて見直し対策を協議してセンター全体に周知しました。

<褥瘡対策専門部会報告>

取り組み

褥瘡診療計画書の更新、褥瘡予防用品の管理表更新、予防用品の更新等を行いました。

防火管理委員会 活動報告

病棟で新型コロナウイルス感染のクラスターが発生しましたが、総合防災訓練については、開催時期と担当病棟を変更し実施。また、1月に開催を予定していた防災研修は、別のクラスター発生による病棟閉鎖のため亀岡消防署へお断りし中止しました。各病棟単位の訓練においては、計画通り月1回、その他の部署で月1回以上の防火防災活動を実施しました。

9月に毎年計画の夜間緊急連絡網発動訓練を実施しました。

10月に開催が予定されていた亀岡自衛消防隊連絡協議会、第44回消火訓練大会は、新型コロナウイルス感染拡大の第7波の影響を受けて3年連続で中止されました。

主な活動（令和4年度）

- ・ 4月21日 亀岡自衛消防連絡協議会 第45回総会
- ・ 5月11日 所内研修・新規採用等職員防災教育（防火設備・消火器取扱）
- ・ 5月22日 亀岡自消連 新規採用等防火研修会
- ・ 9月6日 第1回防火管理委員会
- ・ 9月15日 総合防災訓練（児童発達支援センター 出火想定）
- ・ 9月22日 緊急連絡網発動訓練
- ・ 10月24日 総合防災訓練（第2病棟 夜間出火想定）
- ・ 11月14日 停電時対応訓練（自家発電装置説明およびポータブル発電機操作訓練）
- ・ 11月16日、17日 甲種防火管理新規講習
- ・ 11月28日、29日 //
- ・ 12月2日 総合防災訓練（通園棟2階 出火想定）
- ・ 2月21日 第2回防火管理委員会

その他

- ・ 12月15日 亀岡警察署員による防犯訓練（不審者侵入時の対応について）

外来診療の状況

診療件数

診療科等	本年度計	前年度計	増減
内 科	1,888	1,372	516
小 児 科	2,379	2,450	-71
精 神 科	6,801	6,858	-57
外 科	0	0	0
整 形 外 科	457	473	-16
皮 膚 科	0	23	-23
耳 鼻 科	247	290	-43
歯 科	2,667	2,600	67
脳 波 ・ ABR	141	152	-11
予 防 接 種	1,589	3,157	-1,568
合 計	16,169	17,375	-1,206
新 患	278+131	248+120	30+11

※新患:新患人数+予診人数

リハビリテーションの状況

外来者訓練件数(単位数)

	本年度計	前年度計	比較増減
理学療法(8名→6名)	2,720	3,130	-410
作業療法(5名)	5,881	4,804	1,077
言語聴覚療法(4名)	4,571	4,612	-41

放課後デイサービス(ココはなのき)

理学療法士:1名/週1回(2名のスタッフが隔週で)	延べ44回
作業療法士:1名/週1回(おおよそ1名のスタッフが毎週)	延べ49回
言語聴覚士:2名/週1回(3名のスタッフが毎週2名ずつ)	延べ70回
11月~1名/週1回(2名のスタッフが隔週)に変更	

発達医療係(発達検査から見た発達外来の状況)

月別受信者数

	初診	再診	総計
4月	12	20	32
5月	13	23	36
6月	16	19	35
7月	20	14	34
8月	16	15	31
9月	16	18	34
10月	17	16	33
11月	18	14	32
12月	9	19	28
1月	12	21	33
2月	17	13	30
3月	14	23	37
合計	180	215	395

受診者の年齢層

年齢層	計	%	内・初診	%
0歳児	0	0.0	0	0.0
1歳～3歳	30	7.6	25	13.9
4歳～6歳	51	12.9	39	21.7
小学生	213	53.9	94	52.2
中学生	43	10.9	9	5.0
高校生	15	3.8	5	2.8
青年・成人	43	10.9	8	4.4
合計	395	100.0	180	100.0

受診者の障害

障害名	計	%	内・初診
知的発達症(ID)	23	5.8	4
自閉スペクトラム症(ASD)	237	60.0	99
注意欠如・多動症(ADHD)	30	7.6	20
ASD+ADHD	37	9.4	18
限局性学習症(LD)	15	3.8	7
LD+ADHD	5	1.3	2
発達性協調運動症(DCD)	2	0.5	1
言語発達遅滞	3	0.8	2
脳性麻痺	5	1.3	2
ダウン症候群	5	1.3	0
てんかん	0	0.0	0
その他	3	0.8	1
未確定	30	7.6	24
合計	395	100.0	180

初診者の紹介元

紹介元	計	%
保健所・保健センター	42	23.3
学 校	41	22.8
医療機関	22	12.2
家族・親族	28	15.6
保育所・幼稚園	6	3.3
相談・療育機関	22	12.2
保護者間	0	0.0
共同作業所、入所・通所施設	0	0.0
その他	19	10.6
合計	180	100.0

行政区別受診者数

居住地	令和4年度受診者		受診者総数
	受診者数	内・初診	
宮津市			2
与謝野町			6
舞鶴市			5
福知山市	5	1	124
綾部市			8
京丹波町	18	12	201
南丹市	73	28	634
亀岡市	268	118	2,195
京都市	3	1	49
向日市	20	17	147
長岡京市	1		35
大山崎町			6
久御山町	2		2
宇治市	2	1	16
城陽市	3	2	18
京田辺市			1
京都府外			38
	395	180	3,487

入所児者の状況

(令和5年3月31日 現在)

病 棟	総数	男	女	令和4年度中の移動		
				入所	退所	備考
第1病棟	39	21	18	1		
第2病棟	35	19	16	2	5	
第3病棟	39	27	12			
第5病棟	35	21	14	3	3	
合 計	148	88	60	6	8	

福祉サービス支給市町村別入所児者数

行政区等	計	男	女
圏域以北	28	21	7
京丹波町	3	1	2
亀岡市	14	11	3
南丹市	6	3	3
圏域以南	47	23	24
京都市	40	24	16
京都府(児童)	4	3	1
滋賀県(児童)	1	0	1
京都市(児童)	5	2	3
合 計	148	88	60

短期入所の状況

	宿泊を伴う利用						医療型特定短期入所			
	利用件数		実利用人数		利用日数		利用件数		実利用人数	
	R3年度	R4年度	R3年度	R4年度	R3年度	R4年度	R3年度	R4年度	R3年度	R4年度
4月	24	18	21	16	129	83	2	1	1	1
5月	30	28	26	24	124	159	7	5	2	3
6月	34	32	29	25	156	165	11	5	2	4
7月	34	37	26	29	154	221	19	6	5	5
8月	36	18	26	16	181	116	15	2	4	2
9月	33	29	27	24	178	170	17	2	4	2
10月	31	37	24	28	164	213	11	4	4	4
11月	38	38	29	28	195	223	4	7	4	7
12月	30	37	28	29	160	212	3	4	3	4
1月	0	31	0	22	0	133	0	6	0	6
2月	0	29	0	22	0	180	0	7	0	6
3月	7	41	7	27	21	210	1	8	1	6
合計	297	375	47	42	1,462	2,085	90	57	30	13

※実利用人数の合計は年間の実利用人数です。

通所係及び花ノ木児童発達支援センター利用状況

はなのき通所(生活介護)の利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
契 約 者 数	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	
開 設 日 数	20	19	22	20	14	18	20	20	17	18	19	22	229
延 べ 利 用 者 数	255	256	285	266	173	233	271	268	231	226	234	281	2,979
出 席 率 (%)	90	93	93	96	79	92	97	95	97	91	89	93	92

はなのき放課後等デイサービスの利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
契 約 者 数	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	
開 所 日 数	20	19	22	20	13	18	20	20	17	18	19	22	228
延 べ 利 用 者 数	40	36	48	45	30	37	40	39	32	32	36	55	470
出 席 率 (%)	85	88	98	88	56	82	91	83	63	75	82	97	82

こども療育係「おひさま」(児童発達支援事業)の状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
契 約 者 数	86	92	93	95	95	95	95	95	95	93	92	92	
開 所 日 数	19	19	22	20	19	20	20	20	17	19	19	17	231
延 べ 利 用 者 数	277	281	344	282	270	298	294	286	241	248	276	255	3,352
利 用 率 (%)	85	83	84	76	76	78	77	86	76	73	79	82	80

児童支援係「ココはなのき」(放課後等デイサービス)の状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
契 約 者 数	44	44	46	46	48	47	45	45	44	43	44	44	
開 所 日 数	18	19	22	19	19	20	20	20	17	19	19	19	231
延 べ 利 用 者 数	131	141	187	137	132	156	146	150	112	116	138	145	1,691
利 用 率 (%)	84	85	92	79	73	83	82	84	74	72	83	86	82

施設内研修の状況

月	日	曜日	時 間	階 層	内 容	講 師	参加人数
4	1・4	金・月	9:00～17:45	新採	令和4年度新規採用者オリエンテーション	理事長・ 所長他担当者	17
	13	水	11:00～12:00	職制 (課長以上)	理事長講話	理事長	20
5	11	水	10:00～11:15 — 14:00～15:00	新採 共通 新採	防災対策 地域美化活動(雨天中止) リフト車操作	オリックス担当者 — 施設管理係	12
	13	金	10:10～15:20	共通	令和3年度(第11回)事例研究大会	研修担当委員会	65
	18	水	10:00～15:15	新採	令和4年度新規採用者研修～系統理解1	高橋地域支援課長補佐 他各部署担当者	15
6	2	木	10:00～15:15	新採	令和4年度新規採用者研修～系統理解2	板垣リハビリ係長 他各部署担当者	17
	15	水	10:10～11:15	共通	接遇マナー研修(ビデオ研修)	法人事務局	20
7	7	木	14:00～15:15	共通	理事長講話Ⅱ	理事長	34
	20	水	10:10～11:15	共通	性の多様性と人権 (LGBTQIA)	京都府府民環境部 人権啓発推進室	27
9	7	水	10:10～11:15	共通	人権研修(個人情報・苦情解決)	岸上管理課長 武内第5病棟師長	31
	15	木	10:10～11:15	共通	診療報酬改定 診療報酬および障害福祉サービス報酬	岸上管理課長	28
	22	木	14:15～15:00	新採	福祉サービスについて (施設見学は中止)	青山相談係主任	11
10	5	水	10:10～10:35	共通	人事評価制度について(概要)	法人事務局 貴志事務局長	4
			10:40～11:15	職制	人事評価 評価者研修		26
	13	木	14:00～15:15	共通	感染対策(基礎技術)	芦原第2病棟師長	31
	26	水	14:00～15:15	共通	前期医療安全研修	土橋第2病棟係長	25
11	2	水	14:00～15:15	共通	人権研修(虐待防止と身体拘束)	宇野地域支援部	28
	10	木	10:10～11:15	共通	院内感染対策 コロナから学んだこと	京都府保健環境研究所 藤田所長	52
12	7	水	14:00～15:15	共通	健康講座 働いて改善・予防!肩こり・腰痛・ひざ痛	洛和会 京都健診センター	27
	15	木	10:10～11:15	共通	防犯研修	亀岡警察署員	22
1	11	水	—	共通	防災研修	亀岡消防署	中止
	19	木	10:10～11:15	共通	職員のメンタルヘルス	京都府精神保健福祉 総合センター	31
2	8	水	14:00～15:15	共通	後期医療安全研修 ～“考えない”ように“考える”～	山内薬剤係長	31
	16	木	14:00～15:15	共通	令和4年度出張報告会	研修担当委員会	33
3	16	木	14:00～15:15	共通	令和4年度(第12回)事例研究大会	研修担当委員会	55